

G5000R II メンテナンスマニュアル

着火不良等の不具合でお困りの際、下記該当箇所をご確認ください。

【不具合】 火が点かない

着火レバーをONにした際、『カチッ』と音がしますか？



NO

【圧電ユニット】の不良が考えられます。P.2 1-1をご確認ください。

YES

着火レバーをONにした状態で、ガスの噴出する音がしますか？

NO

【噴射ノズル】の不良が考えられます。P.3 2-1をご確認ください。

YES

消耗品である【燃烧室】または【エゼクター】の交換時期の可能性があります。

- ①最初に、エゼクターをご確認ください。P.3 2-2
- ②問題がないようであれば、燃烧室をご確認ください。P.4 3-1

【不具合】 ガスが調節出来ない

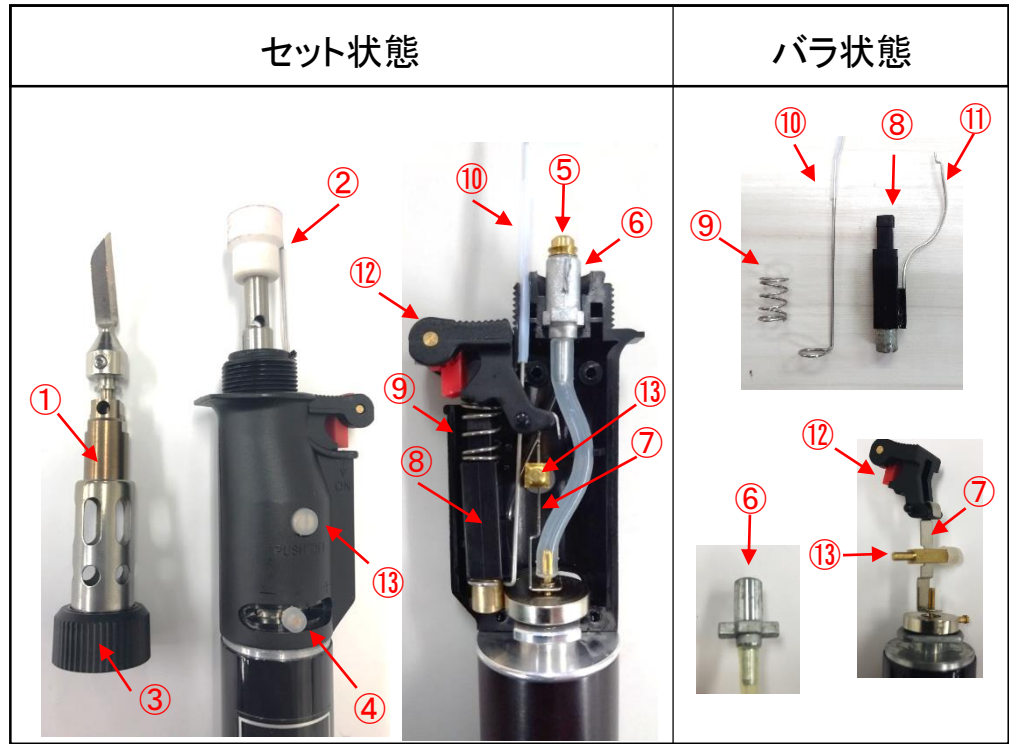
ガス調節レバーのメンテナンスが必要となります。P.4 3-2をご確認ください。

【不具合】 ガスが漏れる

本体の損傷による為、修理できません。新品をご購入いただきますよう、お願い致します。

【主な部品の名称】

- ① 燃烧室
- ② エゼクターユニット
- ③ ローレットキャップ
- ④ ガス調節レバー
- ⑤ 噴射ノズル
- ⑥ 噴射ノズル台
- ⑦ スイッチ支持板
- ⑧ 圧電ユニット
- ⑨ 圧電バネ
- ⑩ 圧電ワイヤー
- ⑪ 誘電線
- ⑫ 着火レバー
- ⑬ オフスイッチ



【1-1 圧電ユニット交換方法】

1. ローレットキャップ③を回して小手先ごとはずし、エゼクターユニット②を引き抜きます(引っ張るだけで取れます)。



2. 着火レバー⑫下にシールが貼ってあり、そのままとボディを開けません。接合部に沿って、カッターで縦に切り目を入れてください。



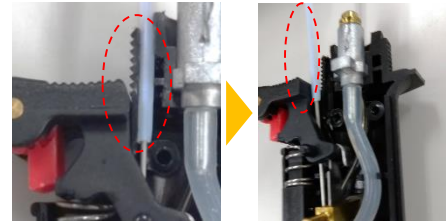
3. 側面のネジ(4本)をはずします。※ネジ4本の内、2本はシールの下にございますので、シールを剥がして作業してください。



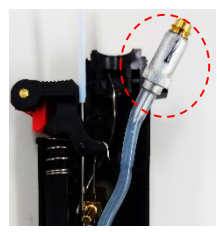
4. 内部はこのようになっています。



5. 圧電ワイヤー⑩が、ボディの溝にはまっているので、手前に外してください。



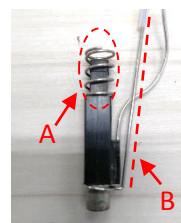
6. 噴射ノズル台⑥をボディの溝からはずしてください。



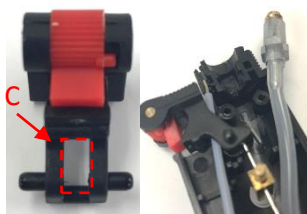
7. 圧電ユニット⑧を手前に引っ張りはずします。



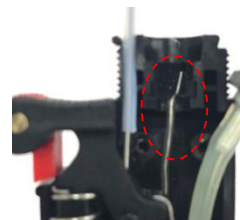
8. とりはずした古い圧電ユニット⑧から、Aの圧電バネ⑨とBの圧電ワイヤー⑩をはずし、新しい方へ付け替えます。



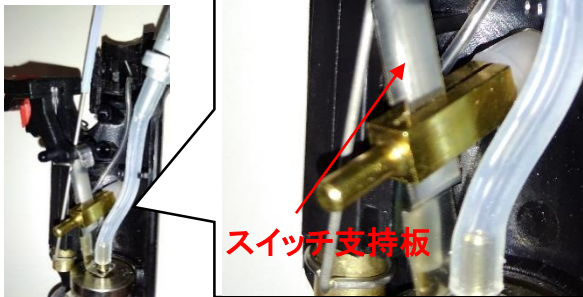
9. 圧電ユニットの取付をします。まず、ワイヤーをCの穴に通します。(Cの穴をわかりやすくする為、スイッチ部分を取り外していますが、作業時は取り外す必要はありません。)



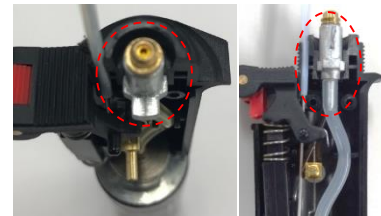
11-3. ボディに誘電線⑪がちょうど収まる溝がありますので、そこにしっかりとはめてください。



10. 次に、誘電線⑪をスイッチ支持板⑦の下にくぐらせてください。



11-4. 噴射ノズル台⑥を所定のくぼみにはめます。



11-5. 圧電ワイヤー⑩の白いチューブの位置を調整し、所定の溝にはめてください。チューブの下端を、矢印の位置に調整してください。



11-1. 圧電ユニット⑧をコテ内部に収めます。圧電ワイヤー⑩、誘電線⑪、噴射ノズル台⑥を、それぞれボディの溝にはめていきます。ポイントを細かくご説明いたします。



12. バネを丸印の穴にあてがうようにしてボディをはめて、ネジを止めてください。



11-2. オフスイッチ⑬が所定の穴に収まっているかご確認ください。



13. エゼクターユニット②を装着し、ローレットキャップ③と小手先を取付して完成です。※エゼクターユニット②の装着方法は、3P 2-2をご確認ください。



【2-1 噴射ノズル交換方法】

1. エゼクターユニット②を引き抜いた後、ラジオペンチ等で噴出ノズル⑤(金色の部分)をつまみます。



2. つまんだまま噴射ノズル⑤を引き抜き、新しい噴射ノズルをはめます。

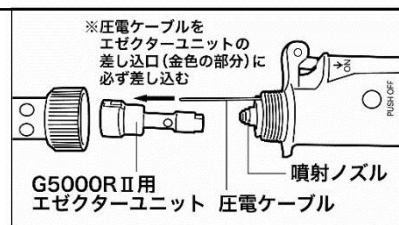


【2-2 エゼクターユニット交換方法】

1. 古いエゼクターユニット②を引き抜きます。新しいエゼクターユニットをはめます。



2. 右図を参考に、新しいエゼクターユニット②を装着してください。



【3-1 燃焼室交換方法】

1. 付属の7mmレンチと8mmを使用します。
8mmレンチを燃焼室①上部に、7mmレンチをコテ先下部に右図のようにあてがいます。



2. 8mmレンチを時計回り、7mmレンチを反時計回りに回すと燃焼室①が外れます。



【3-2 ガス出力調整方法】

1. ガス調節レバー④が真ん中の位置で、炎の芯の部分、7mm前後になるのが標準です。(ローレットキャップ③をはずして、エゼクターユニット②をむき出しの状態のまま、着火してください)



2. ガス調節レバー④のキャップをはずし、基準より炎長が長い場合は短くなるように、短い場合は長くなるようにレバーで調整します。



3. マイナスドライバーで反時計回りにレバーを緩め、センター位置に戻します。



4. センター位置で時計回りにネジを締めます。再度、炎長を確認してください。コントロールレバーカバーをつけて調整は終了です。



【定期メンテナンスのご案内 ～長期間ご使用いただく為に】

この度は『バーンナイフG5000R II』をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。こちらの製品は、大変精密な構造となっております、日々のメンテナンスの有無によって、寿命が大きく変わります。故障原因の9割以上を占めるのが「定期的な清掃をしないことによる着火不良」そして、「消耗部品の寿命」によるものです。

つきましては、製品本体に同梱しております、『バーンナイフG5000R II のメンテナンス方法』をご覧ください、週に1回程度を目安に、定期メンテナンスをしていただければと存じます。

また、『エゼクターユニット』ならびに『燃焼室』は消耗品となり、一定期間で製品寿命が尽きますので、予備をお持ちいただく事をお勧めいたします。

【冬季など、気温が低い環境でのご使用について】

専用ガス『ガスボンベ（中島銅工製）』をご使用の場合、成分の性質上、気温の低い環境下においては本体や部品に異常がなくても着火がしづらくなる事がございます。その際は、『冬季用ガスボンベ※』をご使用いただくと、着火がしやすくなる場合がございます。
※近日発売予定です。